

(別記)

令和元年度長久手市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

長久手市は水田面積に占める主食用米面積の割合が約85%で、残りは野菜や飼料用米、米粉用米等が続く。その中で、需要に応じた米生産の効果もあり、野菜や景観形成作物が代表的な転作作物となり、それらの耕作面積が増えてきている。

農家については、高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。

今後は、主食用米の需要は徐々に減少すると見込まれるので、市の総合的な自給率向上を図る中で、主食用米の栽培や自給率向上に寄与が低い景観形成作物栽培から、自給率向上に寄与する飼料用米の栽培や野菜栽培への転作をどれだけ効率よく推進できるか、また、土地所有者への作付指導や利用権設定の案内等により、不作付地の解消をいかにスムーズに行うことができるかが課題となる。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

現在、本市の主力となっている品種は「コシヒカリ」、「あいちのかおり」、「ゆめまつり」である。これらの品種については、生育時期をずらし、品種の選択度を拡大することで、作業効率の向上を図っている。前年度の需要動向等を勘案しつつ、米の生産を行っていく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物の中心作物に位置付ける。また、飼料用米の生産拡大にあたっては、主食用品種でも多収できる技術の確立等を進める。

イ 米粉用米

本市では、米粉用米を使用したパンやうどん、スイーツ等が開発されており、一定の需要がある。しかし、米を粉にするまでの労力がかかるということで、商品化が進まないのが現状である。今後、新たな機械の導入等、労働力に負担がかかりにくい環境づくりの提供を検討し、米粉用米の生産量を徐々に上げていくこととする。

(3) 高収益作物（園芸作物等）

本市で生産されている主要な野菜等は、都市近郊の立地条件を生かした、はくさい等である。これらの品目を含め、その他の品目についても稲作栽培が困難なほ場や、部分転作として栽培されている。市内には地産地消を求める声の高まりを受け、農協には産直売場、田園バレー交流拠点施設（あぐりん村）には「農産物直売所 市・ござらっせ」が開店しており、農業者が生産した農作物を比較的容易に流通させる環境が構築されたことを生かし、多様な農作物を振興し、生産の拡大に努める。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	76.4	76.0	75.0
飼料用米	4.5	4.5	5.2
米粉用米	0.1	0.1	0.2
新市場開拓用米	—	—	—
WCS用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	—	—	—
麦	—	—	—
大豆	—	—	—
飼料作物	1.0	1.0	1.0
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	7.0	7.2	7.5
野菜	4.1	4.3	4.6
花き・花木	0.0	0.0	0.0
果樹	0.2	0.2	0.2
その他	2.7	2.7	2.7

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度実績	目標値
1	飼料用米	飼料用米の生産拡大、生産性・品質向上に向けた取組	作付面積	(30年度) 4.5ha	(2020年度) 5.0ha
2	米粉用米	米粉用米の生産拡大、生産性・品質向上に向けた取組	作付面積	(30年度) 0.07ha	(2020年度) 0.17ha
3	野菜、花き・花木、果樹等	高収益作物(野菜等)に対する支援	野菜取組面積	(30年度) 0.33ha	(2020年度) 0.66ha
			花き・花木取組面積	0.00ha	0.06ha
			果樹取組面積	0.00ha	0.03ha
			計	0.33ha	0.75ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり